

はじめに

昨年3月、国難とも言うべき未曾有の大震災が日本を襲いました。本県においても、台風12号により県南部を中心に甚大な被害がもたらされ、復旧までの期間、学校における教育活動が行われない状況が続きました。その後授業が再開され、学舎に戻って仲間とともに学ぶ子どもたちの生き生きとした姿を見聞きする中で、「先生や友達に会いたい」「教室でみんなと勉強がしたい」という子どもたちの熱い思いに応え、その思いを大切に育んでいくことができるように学習環境を整え、意欲を高めるための工夫をし続けることが指導者の責務であることを強く感じました。

さて、本年度は小学校において、新学習指導要領が全面実施されました。また、平成24年度には中学校で、平成25年度には高等学校において新学習指導要領が全面実施されます。新しい学習指導要領では、「生きる力」を育むという理念を継承し、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の調和のとれた育成を目指しています。

ところで、この“調和のとれた育成”とはどのように行われるものなのでしょうか。その具体的な方法、手段といったことについて、子どもたちの実態や地域の特性等を踏まえ、今後とも、各学校で検討を深めていただきたく思いますが、具体的な方法論、実践論について論じる場合には、観念的な要素を極力排除し、データに基づく実証的な視点で語っていく必要があると考えます。教育に関する研究は、多角的に行われるべきものではありませんが、イメージや観念に立脚した議論を繰り返すだけでは、なかなか現実を変えていく方法・手段を明確にすることはできません。

県立教育研究所としては、県の教育的課題をいかに解決していくかということを第一義として、研究テーマについてできるだけデータに基づく実証的な視点で取り組み、諸々の課題の原因や、その解決に繋がる方法、手段について迫っていきたいと考えています。

この一環として、本年度も、当教育研究所の研究指導主事等の研究を「研究紀要」に、奈良県教育委員会指定研究員及び奈良県教育研究所長期研修員によるプロジェクト研究並びに個人研究を「研究集録」としてまとめました。

なお、ここに挙げましたものは、紙幅の関係上、研究内容を要約したものとなっています。より詳細な内容については、当研究所のホームページ及び当研究所図書室に保管している「研究報告書」を御覧いただきたいと思えます。これらの研究成果を積極的に日々の教育活動に活用していただくとともに、より一層の研究の進展のために御意見をいただければ幸いです。

末筆となりましたが、指定研究員及び長期研修員の皆様はもとより、ここに収められた研究を進めるにあたり多大な御協力と御支援を賜りました各関係校（園）の諸先生方に心より御礼申し上げます。

平成24年3月

奈良県立教育研究所

所長 富岡 将人